

実践報告

英国サッカーキャンプ 2018 活動報告

The activity report UK football camp 2018

島田 里緒菜 田本 育代
Riona Shimada Ikuyo Tamoto

Abstract

本学女子サッカー部シエンシアにおけるスポーツの異文化交流行事である「英国サッカーキャンプ 2018」について平成 30 年度の活動を報告する。英国でのサマーキャンプは、平成 9 年から 21 度にわたり実施してきた。平成 23 年には、本学の創立 20 周年、母体の学校法人後藤学園の創立 60 周年であることを受け、記念事業の 1 つとしてアーセナルレディースを日本に招待した。この異文化交流は、学生にとって貴重な経験になるため、今後も様々な方のご協力のもとに継続していきたいと考えている。

キーワード：フットボール、異文化交流、サマーキャンプ、コミュニケーション能力

I はじめに

武蔵丘短期大学女子サッカー部シエンシア（以下、シエンシア）は、毎年 8 月にアーセナルレディースの協力のもと、異文化交流として平成 9 年から 21 年にわたり「英国サッカーキャンプ」（以下、キャンプ）を実施している。このキャンプは、フットボールの母国である英国で、日本とは違うフットボールの環境や多くの人々から長年に渡って幅広く親しまれている文化としてのフットボールに触れるとともに、海外のフットボール仲間との交流を深めることを目的とし実施している。また、8 月下旬から開幕する関東大学女子サッカーリーグの強化遠征としての位置づけもある。このキャンプを通して、個人の能力向上をはじめ、サッカーの指導法やコミュニケーション能力の向上に努めている。

本報告では、今回のキャンプから得られた課題を明確にし、今後の実施内容について検討することを目的とする。

II 英国サッカーキャンプ 2018

1. 日程

今年度のキャンプは、平成 30 年 8 月 7 日（火）～8 月 18 日（土）の 12 日間に、英国で行われた。参加者は本学の教員 2 名の引率のもと、学生 25 名の参加であった。

2. 内容

練習は、アーセナルレディースのスタッフからの指導を中心として展開された。（図 1、図 2）すべての会話は、英語で進められジェスチャーを交えながらの展開となった。選手たちも一生懸命に聞き取るように努め、普段の練習とは違う雰囲気の中精一杯に吸収しようとしていた。

試合は、このキャンプ中に 45 分ハーフの 3 試合（アーセナルレディース、トッテナムレディース、ワトフォードレディース）が組まれていた。選手たちは肌で外国人選手たちのプレーを感じることが出来た。

1) vs アーセナルレディース（図 3）

雨が降る中での試合開始となった。前半から、ボールを失うことなく、自分たちのペースで試合を展開することができた。2 点をリードし、前半を折り返した。後半は、メンバーを総入れ替えて挑んだ。攻守にわたってチャレンジする姿は見られた。しかし、パスミスや守備での連係ミスから 2 点を失点した。2-2 の引き分けで試合終了となった。

2) vs トッテナムレディース

前半からシエンシアが得意とするパス回しでビルドアップをし、チャンスを作った。14 分には相手のパスミスのカットし先制。41 分にも右サイドから

のクロスボールを冷静に決め2点目を獲得。終了間際の44分には裏へ抜け出し3点目を獲得した。後半は、メンバーを総入れ替えて挑んだ。3分に、裏へ抜け出し一人交わして4点目を決めると、続く5分にも裏へ抜け出し5点目を決めた。しかし、6分、12分と立て続けに失点をした。その後、チャンスはあったものの決めきることが出来なかったが、5-2で勝利することができた。

3) vs ワトフォードレディース

前半から前への推進力があり、シエンシアのペースで試合が展開できた。3分には裏へ抜け出しから先制。その後も、こぼれ球を回収し、シュートをするなど4点を追加した。終了間際に相手のカウンター攻撃から失点をし、5-1で前半を折り返した。後半は、メンバーを総入れ替えて挑んだ。23分にコーナーキックから失点をしてしまうが、37分には裏へ抜け出し6点目を決めた。6-2で試合終了となった。

4) 市街地巡り

8月11日、14日の二日間で行われた。ロンドン市街やプレミアリーグを観戦したり、ショッピングを楽しんだりと選手たちはリフレッシュしていた。14日、ビックベン周辺でテロ疑惑の交通事故があり、一時は中止が検討されたが、テロではないとの確認がされたため複数人での行動を原則として予定通り決行された。



図1 指導風景 (FP 練習)



図2 指導風景 (GK 練習)



図3 アーセナルレディースと集合写真

Ⅲ 今後の課題

この英国サッカーキャンプは、異文化交流として、また、海外のフットボール仲間との交流を深めることを目的として開催されている。さらに、8月下旬から開幕する関東大学女子サッカーリーグの為に強化遠征としての位置付けもある。キャンプの内容としては、シエンシアの特徴であるパスサッカーに加えて、シュートや個の打開力を育成するプログラムで展開されている。普段の練習では気が付かないところを指摘、指導していただけるため今後も同様の内容で展開していきたいと考えている。

今回のキャンプにおける課題として 1) テロ等の報道および実際にテロが起こった時の対応 2) キャンプで得ることができた課題についてのフィードバックの検討の2つが挙げられる。

1) テロ等の報道および実際にテロが起こった時の対応について、今回は SNS を通じて現地の状況を発信したが、逆に混乱を招いてしまう場合も考えられた。これらのことに関して、次年度以降の課題とし、今後同様のことが発生した時どのように情報を発信するのか検討したい。

2) キャンプで得ることができた課題についてのフィードバックについて、これまで選手には、感想のみを提出させていた。今後はそれに加えて、キャンプへの要望や練習内容についてのアンケート調査を行い、より選手の能力向上に寄与できるような取り組み内容にしたいと考えている。

IV 謝辞

この英国サッカーキャンプ2018の開催にあたり、全面的にご支援くださった学校法人後藤学園の皆様、キャンプの統括をされた佐伯将史様、末弘健太様、また関係者の皆様に感謝申し上げます。